

[B年] 復活節第7主日(2022年5月29日)**【旧約聖書日課】 イザヤ書 45章1～7節**

1 主が油を注がれた人キュロスについて

主はこう言われる。

わたしは彼の右の手を固く取り

国々を彼に従わせ、王たちの武装を解かせる。

扉は彼の前に開かれ

どの城門も閉ざされることはない。

2 わたしはあなたの前を行き、山々を平らにし

青銅の扉を破り、鉄のかんぬきを折り

3 暗闇に置かれた室、隠された富をあなたに与える。

あなたは知るようになる。

わたしは主、あなたの名を呼ぶ者

イスラエルの神である、と。

4 わたしの僕ヤコブのために

わたしの選んだイスラエルのために

わたしはあなたの名を呼び、称号を与えたが

あなたは知らなかった。

5 わたしが主、ほかにはいない。

わたしをおいて神はない。

わたしはあなたに力を与えたが

あなたは知らなかった。

6 日の昇るところから日の沈むところまで

人々は知るようになる

わたしのほかは、むなしなものだ、と。

わたしが主、ほかにはいない。

7 光を造り、闇を創造し

平和をもたらし、災いを創造する者。

わたしが主、これらのことをするものである。

【使徒書日課】**エフェソの信徒への手紙 1章15～23節**

15 こういうわけで、わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、¹⁶祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています。¹⁷どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、¹⁸心の目を開いてくださるようになり、そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるようになり、¹⁹また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるようになり、²⁰神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、²¹すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき

世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。²²神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。²³教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。

【福音書日課】 ヨハネによる福音書 17章1～13節

¹イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。²あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができます。³永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。⁴わたしは、行くようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。⁵父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。

⁶世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。⁷わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。⁸なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。⁹彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのもだからです。¹⁰わたしのものはすべてあなたのも、あなたのもはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。¹¹わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。¹²わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。¹³しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

イザヤ書 45章1～7節

1 主は油を注がれた人キュロスについてこう言われる。

私は彼の右手を取り、
彼の前に諸国民を従わせ、
王たちを丸腰にする。

彼の前に扉は開かれ、
どの門も閉ざされることはない。

2 私はあなたの前を行き、山々を平らにし、
青銅の扉を破り、鉄のかんぬきを砕く。

3 私は暗闇に置かれた宝と隠された財宝を
あなたに与える。

それは、私が主であり、
あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることをあなたが知るためである。

4 私の僕ヤコブ、私が選んだイスラエルのために
私が呼んだ名を

あなたに名乗らせようとしたが
あなたは私であると分からなかった。

5 私は主、ほかにはいない。
私のほかに神はいない。

私はあなたに力を授けたが
あなたは私であるとわからなかった。

6 それは、日の出る所からも、日の沈む所からも
人々が知るためである。

私のほかは無に等しい。
私は主、ほかにはいない。

7 光を造り、闇を創造し

平和を造り、災いを創造する者。
私は主、これらすべてを造る者である。

エフェソの信徒への手紙 1章15～23節

15 こういうわけで、私も、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖なる者たちに対する愛とを聞いて、¹⁶祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています。¹⁷私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、あなたがたに知恵と啓示の霊を与えてくださいますように。そして、あなたがたが神を深く知ることができ、¹⁸心の目が照らされ、神の招きによる希望がどのようなものか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか、¹⁹また、私たち信じる者に力強く働く神の力が、どれほど大きなものかを悟ることができますように。²⁰神は、この力ある業をキリストの内に働かせ、キリストを死者の中から復活させ、天上においてご自分の右の座に着かせ、²¹この世だけでなく来るべき世にあ

る、すべての支配、権威、権力、権勢、また名を持つすべてのものの上に置かれました。²²また、すべてのものをキリストの足元に従わせ、すべてのものの上に立つ頭としてキリストを教会に与えられました。²³教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方が満ちておられるところです。

ヨハネによる福音書 17章1～13節

1 イエスはこれらのことを話してから、天を見上げて言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子に栄光を現わしてください。²あなたは、すべての人〔直訳→肉〕を支配する権能をお与えになったからです。こうして、子が、あなたから賜ったすべての者に、永遠の命を与えることができますのです。³永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。⁴私は、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。⁵父よ、世が造られる前に、私が御もつで持っていた栄光で、今、御前に私を輝かせてください。

⁶世から選んで私に与えてくださった人々に、私は御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたは私に与えてくださいました。彼らはあなたの言葉を守っています。⁷私に与えてくださったものはみな、あなたから出たものであることを、今、彼らは知っています。⁸なぜなら、私はあなたからいただいた言葉を彼らに与え、彼らはそれを受け入れて、私が御もつから出て来たことを本当に知り、あなたが私をお遣わしになったことを信じたからです。⁹彼らのためにお願いします。世のためではなく、私に与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものだからです。¹⁰私のものはすべてあなたのもので、あなたのものは私のものです。私は彼らによって栄光を受けました。¹¹私は、もはや世にはいません。彼らは世にいますが、私は御もつに参ります。聖なる父よ、私に与えてくださった御名によって彼らを守ってください。私たちのように、彼らも一つとなるためです。¹²私は彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。私が保護したので、滅びの子のほかは、誰も滅びませんでした。聖書が実現するためです。¹³しかし今、私は御もつに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、私の喜びが彼らの内に満ち溢れるようになるためです。

黙想のためのノート**次主日教会暦と聖書日課について**

・5月29日「復活節第7主日」の日課主題は「キリストの昇天」。キリストの昇天を記念する「昇天日」は、「復活日」から40日目の木曜日に設けられてきたが、近年、非キリスト教圏では、「復活節」の最終主日を「昇天の主日」として記念するようになっている。

・福音書日課は、「ヨハネによる福音書」から、「大祭司イエスの祈り」等と呼ばれる箇所の前半部。旧約聖書日課は、「イザヤ書」から、バビロン捕囚を終結させたペルシア王キュロスの登場を主の計画として告げる預言の箇所。使徒書日課は、「エフェソの信徒への手紙」から、冒頭挨拶の一部として記される祈りの箇所。

旧約日課(イザヤ45章より)

・「イザヤ書」は、旧約正典「後の預言者」の第一に置かれた預言書で、正典「預言者」全体を一つに結びつける要に位置づけられる文書。通常、39章までの「第一イザヤ」と、40章以下の「第二イザヤ」に分けて扱われる。「第一イザヤ」は、前8世紀末の歴史上の王宮預言者イザヤの「預言の書」としての体裁で大部分が構成され、最後に「前の預言者」最終巻の「列王記」にも収められている「ヒゼキヤ王の事績」が置かれている。「第二イザヤ」は、歴史上の預言者イザヤの時代から二世紀後の前6世紀、「バビロン捕囚」から解放されユダヤ帰還を許された時代に、「預言者イザヤ」に遡る「祭司=預言者」の伝統を継承する集団によって告げられた預言の集成として編纂され、「第一イザヤ」に付加されることで「イザヤ書」を構成する一部となったと考えられる。

・日課箇所は、ペルシア王キュロスを「主が油注がれた人」として取り上げ、主の御業を行う器として示す預言が告げられている。「キュロス」の名は、直前(44:28)にも挙げられているが、「第二イザヤ」中で歴史上の具体的な事物に結びつくほとんど唯一の例である(「第一イザヤ」は、多数の歴史的事物が具体的に取り上げられている)。ペルシア王キュロス(在位=前559~530年頃)は、即位すると周辺諸国(メディア、リュディア、バビロニア)を次々と征服し、「アケメネス朝ペルシア帝国」の祖として知られるようになったが、バビロニアとは異なる諸民族に対する寛容政策を取り、一定の民族的自治を推進することによって、その支配が諸民族からも歓迎された側面があったとされる。キュロス王は、バビロニア帝国の首都バビロンを攻略する際には、当時、バビロンの主神マルドゥクを蔑ろにして月神シンに傾倒していたバビロニア王ナボネドスに代えてマルドゥクがキュロスを選び、バビロンに平和を取り戻させようとしている、と自ら喧伝したと言われているが、支配下諸民族にマルドゥク崇拝を強いることはなく、マルドゥク神を帝国宗教に位置づけることもなかったとされる。キュロスから始まるペルシア帝国の支配のスタイルは、その後、多くの覇権国で踏襲された。

使徒書日課(エフェソ1章より)

・「エフェソの信徒への手紙」は、使徒パウロが宣教活動の拠点として三年ほど滞在したとされるアジア州エフェソの教会に宛てた書簡で、伝承では彼がローマ滞在中(後62年ごろ?)に執筆したとされる。現代の聖書学者の中には、本書簡(および「コロサイの信徒への手紙」)の用語法などの特徴が他のパウロ書簡と異なる部分が多いことから、パウロ本人ではなくパウロの後継者らによって執筆されたものではないか、と推測する者もいる。しかし、当時は、パウロに限らず差出人本人が筆を執って記すことは稀で、多くの場合に専門の訓練を受けた者によって口述筆記したため、代書者次第で用語法などに違いが生じるのが通例であった。

・日課箇所は、冒頭挨拶文の一部を構成する「祈り」として記されている。パウロ書簡では、冒頭挨拶の一部として祈りが記されるのが通例であるが、本書簡の場合は特に長大な挨拶文の中の長大な祈りとなっている。本書簡中では、本文中でも「祈り」として記される箇所がある(3:14以下など)。「祈り」の内容は、神への感謝から始まり、宛先の教会共同体のための執り成し、神の御業の賛美、によって構成されている。

・23節「教会はキリストの体であり…」は、パウロの「キリストの体」教会論の一つとして注目されてきた句である。パウロの「キリストの体」教会論は、「コリントの信徒への手紙一」12章(27節を中心に)に基づくものもある。二つの「キリストの体」教会論は、実際には大きな違いがある。「Iコリント書」の場合、パウロが論じている「教会」は、地域に根差して形成された具体的な教会共同体のことであり、一種の有機体的組織論としての教会論である。一方、「エフェソ書」の場合、パウロが論じている「教会」は、抽象概念化された宇宙大の普遍的教会のことであり、終末論的救済観の中に位置づけられる教会論である。

福音書日課(ヨハネ17章より)

・日課箇所は、主イエスが十字架にかけられる前の晩、弟子たちと過ごした最後に祈られた祈りとして伝えられる箇所の前半部で、その執り成しの側面を捉えて「大祭司イエスの祈り」などと呼ばれることもある。ここには、「ヨハネ福音書」が主イエスの教えられたこととして強調してきた要点がまとめられている。すなわち、「父である神」と「子であるキリスト」が言葉と行いにおいて一体であること、その「子であるキリスト」には地上で「弟子たち」が託されており、一体である「父と子」と一体とされるように導かれていること、さらにその「弟子たち」を通して「他の人々」もまた、「父と子(と弟子たち)」と一体にされるように導かれていること、が展開される。日課箇所は、その展開の途中までの箇所。

・日課箇所中では、「栄光を現わす」「栄光を与える」という表現が繰り返されている。原語(ギリシア語)は「ドクサゾー」で、原義「意見する」から転化して、「良いものと認める」の意で「栄光を現わす/賛美する」。

・2 節「人」の原語は「サルクス」で、通常「肉」と訳される語。旧約では「人」の意味で「肉（バーサール）」が用いられる例が多数ある。本福音書中では、特定の文脈で集中して用例がある(1:13~14、3:6、6:51~63)

・3 節は、主イエスの発言としては不自然な表現が含まれるが、このような事例は「ヨハネ福音書」では多数ある。本福音書は、全体が一種の「説教の語り」として叙述されており、主イエスの発言と著者の注釈が混在している場合がある。

来週の誕生日 (5月29日~6月4日)

主日礼拝の讚美歌から

- ・21-337 番「たたえよ、この日」は、18 世紀メソジスト派の始祖の一人 C.ウェスレーの作詞。原歌詞は 10 節までであるが、英語讚美歌集では適宜組み合わせられた節によって編纂されてきた。曲は、盲目のアマチュア音楽家 R.ウィリアムズの作曲とされるが、19 世紀の讚美歌集で作者不詳のまま「ウェールズの讚美歌曲」として組み合わせられて以来、用いられてきた。
- ・21-419 番「さあ、共に生きよう」は、ドイツで毎年行われている全国信徒大会 1983 年大会のために編纂された讚美歌集『いのちに立ち返ろう』から採用された讚美歌。
- ・21-390 番「主は教会の基となり」は、19 世紀英国教会司祭 S.J.ストーンが牧会教育上の必要から信仰告白「教会はキリストの体にして、恵みにより召されたる者の集い」に焦点を当てて作詞。曲は、C.ウェスレーの孫で 19 世紀英国教会のオルガニストとして活躍したサミュエル・S・ウェスレー(チャールズ・ウェスレーの孫)が「黄金の都エルサレム(Jerusalem the Golden / Urbs Sion aurea)」の歌詞に合わせて作曲したもの。21-101 番も同曲。
- ・21-564 番「イエスは委ねられる」は、マタイとルカにある主イエスの宣教命令を歌う新しい讚美歌。原曲の 1,2,5 節が採用されている。作詞者ローソンは英国教会の司祭から米国聖公会に転じて大学で礼拝学を教授。作曲者テイラーは 20 世紀英国教会の司祭で、王立協会音楽学校のチャプレンとして歌集編集や作曲、新しい讚美歌の普及に貢献。

21-337「たたえよ、この日」

Hail The Day That Sees Him Rise

1. Hail the day that sees him rise, Alleluia! / to his throne beyond the skies. Alleluia! / Christ, the Lamb for sinners given, Alleluia! / enters now the highest heaven. Alleluia!
2. There for him high triumph waits; Alleluia! / lift your heads, eternal gates. Alleluia! / He has conquered death and sin; Alleluia! / take the King of glory in. Alleluia!
3. Highest heaven its Lord receives; Alleluia! / yet he loves the earth he leaves. Alleluia! / Though returning to his throne, Alleluia! / still he calls us all his own. Alleluia!
4. Still for us he intercedes; Alleluia! / his atoning death he pleads, Alleluia! / near himself prepares our place, Alleluia! / he the firstfruits of our race. Alleluia!
5. There we shall with you remain, Alleluia! / partners of your endless reign, Alleluia! / see you with unclouded view, Alleluia! / find our heaven of heavens in you. Alleluia!

21-419「さあ、共に生きよう」

Damit aus Fremden Freunde werden

1. Damit aus Fremden Freunde werden, / kommst du als Mensch in unsre Zeit: / Du gehst den Weg durch Leid und Armut, / damit die Botschaft uns erreicht.
2. Damit aus Fremden Freunde werden, / gehst du als Bruder durch das Land, / beegnest uns in allen Rassen / und machst die Menschlichkeit bekannt.
3. Damit aus Fremden Freunde werden, / lebst du die Liebe bis zum Tod. / Du zeigst den neuen Weg des Friedens, / das sei uns Auftrag und Gebot.
4. Damit aus Fremden Freunde werden, / schenkst du uns Lebensglück und Brot: / Du willst damit den Menschen helfen, / retten aus aller Hungersnot.
5. Damit aus Fremden Freunde werden, / vertraust du uns die Schöpfung an; / Du formst den Menschen dir zum Bilde, / mit dir er sie bewahren kann.
6. Damit aus Fremden Freunde werden, / gibst du uns deinen Heiligen Geist, / der, trotz der vielen Völker Grenzen, / den Weg zur Einigkeit uns weist.

21-390「主は教会の基となり」

The Church's one foundation

1. The Church's one foundation / Is Jesus Christ, her Lord; / She is his new creation / By water and the Word. / From heav'n He came and sought her / To be his holy bride; / With his own blood he bought her, / And for her life he died.
2. Elect from every nation, / Yet one o'er all the earth; / Her charter of salvation: / One Lord, one faith, one birth. / One holy name she blesses, / Partakes one holy food, / And to one hope she presses / With ev'ry grace endued.
3. Through toil and tribulation / And tumult of her war / She waits the consummation / Of peace forevermore / Till with the vision glorious / Her longing eyes are blest, / And the great Church victorious / Shall be the Church at rest.
4. Yet she on earth has union / With God, the Three in One, / And mystic sweet communion / With those whose rest is won. / O blessed heav'nly chorus! / Lord, save us be your grace / That we, like saints before us, / May see you face to face.

21-564「イエスは委ねられる」

Lord, You Give the Great Commission

1. Lord, you give the great commission: / "Heal the sick and preach the word." / Lest the church neglect its mission, / and the gospel go unheard, / help us witness to your purpose / with renewed integrity: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
2. Lord, you call us to your service: / "In my name baptize and teach." / That the world may trust your promise, / life abundant meant for each, / give us all new fervor, draw us / closer in community: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
3. Lord, you make the common holy: / "This, my body; this, my blood." / Let us all, for earth's true glory, / daily lift life heavenward, / asking that the world around us / share your children's liberty: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
4. Lord, you show us love's true measure: / "Father, what they do, forgive." / Yet we hoard as private treasure / all that you so freely give. / May your care and mercy lead us / to a just society: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
5. Lord, you bless with words assuring: / "I am with you to the end." / Faith and hope and love restoring, / may we serve as you intend, / and, amid the cares that claim us, / hold in mind eternity: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.